協会会員企業の関係記事

ページ
アイサワ工業(株)……53,58,64,65,66,67,78
青木あすなろ建設(株)
……53, 58, 64, 65, 66, 67, 78
あおみ建設(株)……53, 58, 67, 78
(株)淺沼組……53
(株)新井組……53, 78
(株)安藤・間……53, 58, 67, 78
岩田地崎建設(株)……53, 58, 78
梅林建設(株)……53, 78
(株)大林組……53, 58, 67, 78
(株)大本組……35, 36, 53, 58, 67, 78
(株)奥村組……53, 58, 67, 78
鹿島建設(株)……53, 58, 67, 78
株木建設(株)……53, 89
(株)クボタ……53
(株)熊谷組
……25, 30, 53, 58, 64, 65, 66, 67, 78
(株)鴻池組……47, 53, 58, 67, 78
五洋建設(株)……53
佐藤工業(株)……53, 58, 67, 78
三幸建設工業(株)……53
清水建設(株)……53, 58, 67, 78
大成建設(株)……53, 58, 67, 78
大日本土木(株)……53, 78
大豊建設(株)……53, 58, 67, 78, 92
(株)竹中土木…53, 55, 56, 58, 67, 75, 76, 78
TSUCHIYA(株)……53
鉄建建設(株)……53, 58, 67, 78
東急建設(株)……53, 58, 67, 78, 86
東洋建設(株)……53, 58, 78, 86
戸田建設(株)……53, 58, 67, 78
飛島建設(株)……53, 58, 67, 78
西松建設(株)……53, 58, 64, 65, 66, 67, 78
日東河川工業(株)……53, 58, 67, 78
日特建設(株)……53, 78
日本基礎技術(株)……53, 78
日本国土開発(株)……53, 58, 64, 65, 66, 67
(株)ピーエス三菱……53, 78
(株)フジタ……53, 58, 67
(株)北陽……53, 58
(株)本間組……53, 58, 67, 78
前田建設工業(株)……53, 58, 78
松尾建設(株)……53, 78
三井住友建設(株)……53, 58, 67, 78
みらい建設工業(株)……53, 58, 78
りんかい日産建設(株)……53, 58, 67, 78
若築建設(株)……53, 58, 78

土 地 改 良

第316号

令和4年1月15日　発行

編集者／発行所
一般社団法人　土地改良建設協会
〒105-0004 東京都港区新橋5丁目34-4
農業土木会館
TEL 03-3434-5961
FAX 03-3434-1006
http://www.dokaikyo.or.jp/

インタビュー及び取材記事等は編集を加えており、文責は当協会にあります。また、農林水産省職員の投稿文の内容や意見は、執筆者個人に属し、同省の公式見解を示すものではありません。

デザイン・印刷　株式会社ひとみ

本誌からの許可無き転載・複製を禁じます。

くろすおーばー
crossover

「桑原悠津南町長に聞く」に引き込まれました

農家に生まれ農業に育てられた真っすぐで純な気持ちを、生まれ故郷に恩返しする姿勢、その感性に乾杯です。そして自分も農家出身の土地改良行政OBとして完敗です。幼少から学生、留学の全てが、故郷発展のための生き様となり、今日の津南町がある。学問で学んだことをその若さで実践する力量に敬服です。気の引き締まる対談でした。琴線に触れる全国の地方行政マンに期待！そして何より桑原悠町長様の今後の大活躍、大いに期待します。

（山口県、60代男性、会社員）

国営事業地区の将来展望「八郎潟への期待」

世紀の大事業と言われた八郎潟干拓。あれから50年。用水路の腐食や欠損、不同沈下によるたわんだ水路。降雨形態の変化による湛水被害、八郎湖の水質悪化の現状等。大潟土地改良区の施設管理への多大なご苦労の様子がうかがえた。新たな取り組みとして、軟弱地盤部は不同沈下に追随するパイプラインに改修。水質保全対策の一環として、沈砂池の新設。用水管理の省力化効率化のため水管理施設も新設するという。是非、官民一体が英知を結集し、完成の暁には「新たな豊穣の大地八郎潟」になる事を期待しています。

（宮城県、70代男性、会社員）

閑話休題を大変興味深く読ませていただきました

いまの農業農村工学系大学がこれほど深刻な状況になっていることに驚かされるとともに、深刻さがよくわかりました。40年前に私も農業農村工学系の大学を卒業しましたが、多くが建設会社、コンサルタント、官公庁への道に進み、博士課程に進む同級生がいなかったことを思い出しました。

しかし、国の礎である農業を支える農業農村工学は今後とも、大きな役割を果たしていかなければならない中、事例で挙げられている取組が進み、若い学生が農業農村工学系の学科に進み人材が育つことを願うところです。

（岩手県、50代男性、地方公務員）

閑話休題「斯界の歯槽膿漏」を大懸念！

母校の「農業土木科」が消えてから30年が経つ。「辛い時、苦しい時、いずこにあってもこのベンチマークをバックサイトしろ！」との趣旨で設置された１等水準点基標を埋設した石碑の想いが在学生や先生方に伝わっているだろうか？「土地改良学」など古めかしい講義名が消えた授業時間割表を眺めて嘆息する。農地開発華やかなりし頃、一時代を風靡した「岩大工法（破砕転圧工法）」はどのコマの中で講義しているものか？ 短パン・Tシャツで測量実習に励む在校生を見やりつつ、頭の中で疑問符が踊る。母校出身の教員も激減し、同窓生とのつながり維持にも悩みが深い。歯槽膿漏対策は喫緊の課題である。提示された対策は的確であり、そうしたことを地道に進めるしかあるまい。人類必須の基礎的生業の礎を造るのが我々の責務なのだから。

（岩手県、60代男性、団体職員）

本誌「土地改良」へのご意見、ご感想をお待ちしております。

官製はがき又はメールにて、本号の記事の中で面白かったもの、興味深かったものを５点以内で順に表題名をお書きいただくとともに、ご意見、ご感想を200字程度でおまとめ下さい。また、住所、氏名、性別、年齢、職業、勤務先、電話番号をお書き下さい（掲載の際には、都道府県名、性別、年齢、職業までを表記させていただきます。また、文意を変えない範囲で、当方の判断で文章の量を調整させていただきます）。

ご感想等を掲載させていただいた方には、毎回もれなく全国各地の名品を贈らせていただきます。次回掲載分については、「秋田呑みくらべ十撰」をご用意しております。[2月末日締切]

宛て先

〒105-0004 港区新橋5-34-4
土地改良建設協会「くろすおーばー」係
メールアドレス　jigyo@dokaikyo.or.jp

PRESENT

秋田呑みくらべ十撰